

動物の診察室から

○ 30 ○

病院へ来ると精いっぱい笑ってくれる、ごんぞう君にも癒やされています

もう10年くらい前になります。ある時胃腸病の症状があったために、注射をしたことがありました。チャチャはその次の「チャチャ」。13歳くらいの中型犬で、丸い耳が立っているともかわいいわんちゃんでした。チャチャは、鳥屋野瀉を1周散歩するのが日課で、その途中で病院へ寄るのです。特に病気のわけ



思い出のわんこたち

触れ合って心を癒やす

ポッキーちゃんを連れてきていました。

今までは、誰かに頭をなでてもらうと満足して帰っていったのですが、それから私が首をもんであげると、しばらく待たせてあげて、私が忙しくて相手をしてあげないと仕方なく帰っていきま

そんなチャチャも、ポッキーも今はいなくなりました。今思うと、毎日忙しく動物を治療している中、チャチャの肩をもちたり、ポッキーをなでたりするのが、私の気持ちを癒やしてくれるひとときとなっていたのでし

はなく、病院へ寄って、私たちの顔を見て帰るのが、いつからか毎日の散歩に組み入れられていました。毎日チャチャは病院へ来て、私たちに頭をなでてもらうと満足して帰っていきま。病院が休みのときでも待合室でしばらく待っていました。

うにして、すたすたと通り過ぎてしまいました。チャチャに打った注射は、少ししみる注射でしたので、チャチャにはそれが気に入らなかったようです。

「ごめんごめん、注射がいやだったんだね」と謝りました。犬は首の後ろを摸んでやると気持ちがいいので、謝りながらチャチャの首の後ろをもちあげると、それで機嫌が直ったようで、次の日が始まりました。外耳炎はよくなってきたので、

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

